


平成27年度 ワークルーム活用報告 1年



教科 国語	単元 「いろいろなふね」 説明文
活用方法	ぼうけん君をつかって、調べたことを発表する 子どもが自ら操作する。
児童の様子や反応	図書室で乗り物についての本を借りて、調べ学習をした後、ワークシートにまとめる。 発表する際に、ぼうけん君でのりもの図鑑を写しながら発表する。 自分で操作するので、発表にも力が入り得意そうであった。 質問したり、納得したりするときでも、映像があるので理解が深まったようである。 映像を見る事自体が1点に集中するので、一体感があり、発表も注意深く聞いていたようである。

教科 生活	単元 あきをみつけよう
活用方法	遠足に行った大仙公園の様子をビデオ撮影してくる。 後日その映像を見ながら、生活科の「あきをみつけよう」の学習をする。
児童の様子や反応	遠足のときには、ゆっくりといろいろな観察が十分にできなかったもので、映像を見ることによって、振り返り学習ができ、遠足を2度楽しむことができたようだ。お弁当と広場遊びとどんぐり拾いで、あっという間に時間が過ぎたため、草木などの観察が不十分なところを、撮影してくるによって、補うことができたのは良かった点である。子どもたちも自分や友達が映っているので、十分楽しんでいたようである。







平成27年度 ワークルーム活用報告 2年

教科	算数	単元	かけ算
活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ かけ算あいさつゲーム ① 対面して挨拶。 ② それぞれが九九カードを持っているので、相手のカードの九九を答える。 ③ 互いに正解したら握手して別のペアを探しに行く。 ④ 間違えたら答えを10回言ってから握手。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ かけ算道場 ・ 1～9の段の九九をチーム戦で行う。 ・ グループで協力して○の段をクリアする。 		
			
児童の様子や反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広いスペースで自由にペアを見つけられるのが良かった。 ・ 九九がランダムに出てきてその段をクリアできると風船が割れずにゲームなどたくさん種類があり、とてもワクワクしていた。自然に九九を声に出していてチームワークが出てきていた。 		

教科	図工	単元	ストローで吹き絵
活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 画用紙の絵をOHCで拡大表示し、絵の具で描く。 ・ 吹き絵をするときに、やり方を実際に前でやる。 <p>その際に黒板に画用紙を張って見本にすると、絵の具が垂れて画用紙に絵の具の跡がついてしまうため、映してストローを吹く。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 黒板でやるときよりも全員が大きな画面で見れることもあり、見やすく吹き絵をしてみたいという意欲がわいていた。 ・ 「おお～！」と声を出して驚いたり、「すごい」と感動していた児童もいた。 		
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; width: 10%;">児童の様子や反応</div> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 45%;">  </div> </div>			

平成27年度 ワークルーム活用報告 3年

教科	社会	単元	スーパーマーケットの裏側を見てみよう。
活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークルームのホワイトボードを利用し、スーパーマーケットで聞きたいことや調べたいことを事前に班でまとめる。 ・スーパーマーケットで調べてきた情報を班でまとめ全体に発表できるようにまとめていく。 ・円卓など班で集まって意見を言い合い、発表方法などを決める。 		
児童の様子や反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードは班の話し合いを進めるうえで大変有効的であり、間違えてもすぐに消せるので話し合いや書き込むことに抵抗なく進めることができた。 ・発表をする際は、ホワイトボードにまとめたものを使用する班が多かった。 ・ホワイトボードを提示する児童や、文章を読む児童、説明する児童などプレゼンテーション形式で楽しみながら活動の報告ができた。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		

教科	算数	単元	まるい形を調べよう。
活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークルームのOHCを使い、初めてコンパスを使う3年生に使用の注意点や手元を見せて共に進めていく。 ・各班テーブルごとにわかれて行うことで、わからない児童や困っている児童を見つけやすく、指導もしやすい。 		
児童の様子や反応	<ul style="list-style-type: none"> ・OHCをつかうことで大変わかりやすかった。との声が多くあがった。 ・マスを利用することやコンパスの回しやすい位置、回しにくい位置を確認することができた。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		

平成27年度 ワークルーム活用報告 4年

教科 理科	単元 月と星
活用方法	<p>①窓側に太陽として赤いフープを置く。(窓から光が入るので窓側)</p> <p>②ワークルームの中央に地球として青いフープを置く。 窓側半分が昼間、ろうか側半分が夜という設定。</p> <p>③月として白いボールを置く。(真昼、夕方、真夜中、朝方)の4方向に置く。</p>
児童の様子や反応	<p>【ねらい】 右側の半月が朝? 夕方? と悩んでしまう單元なので、簡単な仕組み、なぜそうなるのかを経験として覚えさせたい。</p> <p>○教室でまず、考えてからワークルームに行って考えさせる。(意欲向上)</p> <p>○ボールを後ろのロッカーの上に置くと夕方。 「ボールのどちら側が光っている?」を実際の目で確かめられるのでとてもわかりやすかった。ノートだけではイメージ出来ない事を確かめられた。理科室の場合、常設は出来ない。今回は夕方に見える半月しか、全体ではしなかったなので、休み時間になると子どもたちは反対側(朝方)の実験をして納得していた。</p> <p>○真ん中に立てること。広く活用できること。常設していつでも確かめに来られること。が特に良かった点である。</p>

教科 国語	単元 暮らしの中の和と洋
活用方法	<p>①平野図書館より38冊の関連図書を借りてくる。</p> <p>②いつでも見られるように、調べられるように「特設コーナー」を設置する。</p> <p>③ホワイトボードに調べた「和」と「洋」の例を自由に書かせる。</p> <p>④調べたことをもとに、「比べる説明文」を書いたり、引用したりする。</p>
児童の様子や反応	<p>【ねらい】 「暮らしの中の和と洋ブック」を書くための資料を探す。</p> <p>○たくさん本を借りることができたので、飽きることなく関連する本を読むことができていた。</p> <p>○「先生、この本にこんなん書いていた～」と本を見せに来てくれる児童がたくさんいた。</p> <p>○和と洋だけでなく、いろいろな文化にふれるきっかけとなった。</p> <p>○座卓に本を広げて、友達と読むことで楽しく調べることができていた。</p>



平成27年度 ワークルーム活用報告 5年

教科 理科	単元 注文の多い料理店
活用方法	国語科の「注文の多い料理店」の学習時に、宮沢賢治の他の作品を紹介するために、『宮沢賢治コーナー』を設け、子どもたちに紹介した。
児童の様子や反応	<ul style="list-style-type: none"> ・「注文の多い料理店」以外の作品を読むことで、子どもたちは宮沢賢治の考えに気づくことができ、授業を進めていく上で有効であった。 ・比べ読みもできるので「注文の多い料理店」と似ている点や違う点などを見つけることで、宮沢賢治の考えについて深く考えることができた。子どもたちが、ワークルームに積極的に足を運んで本を手にとっている姿が印象的だった。



教科 体育	単元 組体操の技の個人練習
活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・組体操の練習時に、ワークルームにマットを運んでおき、休み時間や放課後などに個人練習できるようにした。 ・練習時の様子をとったビデオを見て、自分たちの技のできや動きについて知ることができた。
児童の様子や反応	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは、組体操の技の習得に向けて意欲的に練習に取り組んでいた。広いスペースを使って、技の確認を友だちとアドバイスしながらおこなっている姿も見られた。練習時の映像を見ながら、自分たちの技の達成度を確認できた。 ・教室からの移動時間もなく、すぐに練習に取り組めるので時間を効率的に使うことができた。

平成27年度 ワークルーム活用報告 6年

教科 国語	単元 町づくりの幸福論
活用方法	「町づくりの幸福論」を読んで、長原の町をふり返り、課題を考える。そして上がった課題を解決するために、他の町での取り組み例を挙げ、どのようにしていくのが良いか班での考えを述べるプレゼンテーションをした。そのプレゼンテーションを進めていくうえで、ワークルームでパソコンで調べたり、画用紙にまとめたりした。
児童の様子や反応	パソコン室、図書室、ワークルームを同時に活用しながら準備をすることで、児童に適した調べ方ができた。掲示物を作る時に、大きな机は話し合ったり、画用紙に書いたりするのにとても使いやすかった。またプレゼンテーション発表の練習をするのに、ワークルームのスペースはとても活動しやすく、子どもたちもいきいきと活動していた。



教科 社会	単元 戦争について調べよう。
活用方法	戦争時代のことについて、子ども達から挙げた課題や自分が調べたいことをワークルームで調べ学習をして新聞製作をした。ワークルームにあるパソコンや歴史に関する本を活用した。
児童の様子や反応	教科書や資料集だけから調べるだけでは、より深い調べ学習はできない。また図書室に毎回行くのもすごく時間がかかるので、ワークルームで気軽に調べ学習ができるのはとても良かった。子ども達がそれぞれに応じた調べ学習ができるので、調べ学習が苦手な児童も友達と協力して取り組むことができていた。

平成27年度 ワークルーム活用報告 わかたけ

教科 国語	単元 注文の多い料理店
活用方法	<p>5年生A児の個別指導。</p> <p>研究授業単元『注文の多い料理店』を事前指導する。</p> <p>高学年ワークルームを活用したのは、原学級の隣にあることでクラスメイトを意識するためであり、わかたけ学級以外の場所で自分を表現する場所を増やすためである。</p>
児童の様子や反応	<p>指導者の考えた時期よりも早い段階から、声を出し、音読を始めたり、自分の考えを伝えたりするようになった。</p> <p>わかたけ学級で見せるような笑顔を見せるようになり、リラックスして学習できる空間となった。</p>

教科 国語	単元 不思議な世界
活用方法	<p>5年生A児の個別指導。</p> <p>原学級と同じ進度で進める。</p> <p>集中し、自身で物語をイメージする。それを言語化し、伝えることを重点として指導した。</p>
児童の様子や反応	<p>自分の考えやイメージを言葉で伝えるだけでなく、踊ったり、歌ったりして表現をし、前単元『注文の多い料理店』自分らしく過ごせる空間となった。</p>

ワークルーム活用の成果と課題

「ワークルーム」とは、児童が自由に出入りし、そこにある書物を見て何かを調べたり、特設されたコーナーで活動したり考えたりする教室の事である。その他にも授業中に電子機器を活用して学習を進めたり、ペア学年との交流の場になったりもする多目的なスペースでもある。そのため、ペア学年の教室の間にワークルームがあり、自分たちの教室のすぐ隣をワークルームとしている。また、普通教室に置いてある児童用の机や椅子はなく、床は全面カーペットが敷いてあり、ワークルームには靴を脱いで入っている。

本校がワークルームを設置し、活用を始めて2年間になる。昨年度は1年目ということもあり、設備の充実を進めるとともに、どのようにワークルームを有効に活用できるのかを模索した1年間であった。そしてこの1年間で様々な電子機器が充実し、設備が整っていった。また、いろいろな活用方法があることも見出せるようになってきた。そして本年度は、このワークルームをいかに有効に活用していくのか、また、児童の思考力、判断力を伸ばすための活用方法は何かを考えていった。

その結果、様々な有効活用があり、その機能性や多様性にあらためて驚かされた。前のページに記載されているような活用方法以外にも各学年様々な活用を行っている。教室ではできないことを、さっと隣のワークルームに行けば簡単にできたり、児童が興味をもって休み時間にワークルームで活動したり、その活用方法は多岐にわたっている。児童への意識調査で、ほとんどの児童が「あって良かった」「楽しい」と思っていることがわかった。児童だけではなく職員のワークルームに対する意識調査でも、全員が「あると便利だ」と答えていた。様々な教科で活用できること、すぐに行ける場所であること、多様性があることなど、その利便性は今までにないスペースとなっている。空いた教室を少し改装しただけで、ここまで有効に活用できたことを我々自身も驚いている。

しかし、児童の学習意欲を高め、思考力や判断力を育む活用方法はまだまだたくさんあると思われる。様々な教材や教具を持ち込んで新たな特設コーナーをつくることや、まだ活用していない教科や単元でも有効な活用方法はあるはずである。そのための時間や手間がかかる事は否めないが、一度設置してしまえば、あとはワークルームの力で児童をどんどん惹きつけてくれる。このワークルームの可能性はとても大きい。来年度からも、この長原小学校の特色のひとつである「ワークルーム」をさらに効果的に活用できるように取り組んでいきたい。